

あゆみ製薬株式会社から先生方へ

カロナールWeb講演会

慢性腎臓病患者における 鎮痛剤の適正使用

我が国の腎疾患患者は増加傾向にあり、2014年末には国内の透析患者数は約32万人となっている。また、成人の8人に1人が慢性腎臓病(Chronic Kidney Disease: CKD)であり、高齢化社会の我が国は、今後さらに増加すると予想されている。CKDの発症には生活習慣病及び加齢が関与しており、また薬物治療を受けた結果、ときに腎機能障害等の危険性を伴い、CKDの原因にもなり得るため注意が必要である。非ステロイド性消炎鎮痛剤(NSAIDs)は、疼痛を緩和する重要な役割を果たすが、NSAIDsによる腎障害が問題になるケースが報告されている。特に高齢者では腎機能や心血管リスクを考慮し、安全性に配慮した薬剤選択が重要となっている。


今回のセミナーでは、疼痛治療における薬物治療、特に腎に与える影響について、最近の報告を交えて解説する。

日時 7月3日(水) 19:00～19:40

演者 小林 修三 先生

湘南鎌倉総合病院
腎臓病総合医療センター長、院長代行

湘南鎌倉総合病院
サテライト会場：【プレハブ会議室A】にて
視聴できます

主催：  あゆみ製薬株式会社